

『今までの発想にとらわれない自己変革』

～高知の地域医療を守る最後の砦になろう～

社会医療法人 近森会
理事長 近森 正幸

はじめに

2021年も新型コロナに始まり、夏以降、新型コロナの最大規模の第5波が全国的に波及し、秋から冬にかけて神風が吹いたように急激に減少している。ワクチンの普及とともにマスクや手洗い、3密を避ける国民の新しい生活習慣の徹底、さらには新型コロナがうまく増殖できず自ら死滅したのではないかという研究もある。冬の到来とともに新しいオミクロン株の流行などにより第6波が押し寄せてくることも考えられ、来年も医療機関として厳しい戦いが続くと考えている。

過去2年間の新型コロナの猛威で、高知の医療にも大変な変化が起こっているが、地域医療を守る最後の砦として使命感を持って対応していきたい。

新型コロナへの対応

高知県の新型コロナに対する医療体制は、高知医療センターをはじめ多くの病院が協力して入院協力医療機関として整備されているが、そのほとんどは軽症から中等症対応の病床で、重症患者の受入れ病床は3床と極めて少なかった。高知県でもパンデミックになれば人工呼吸器やECMOが必要な重症患者が増加するため、当院でもフェーズ3以上でSCU（脳卒中）病棟15床を中等症から重症対応のCU（コロナ）病棟7床に転換し、第3波以降、第5波まで通常の救命救急医療と並行して多くの重症患者の診療にあたってきた。

高知大学病院や高知医療センター、JA高知病院などから多くの重症患者が搬入されてきたが、これまでの救急医療や集中治療のノウハウをいかし、感染症内科の石田正之部長を中心に医師同士のチーム医療、多職種とのチーム医療で良好な治療成績を出すとともに、感染性がなくなりリハビリが必要な場合は、一般病棟への転棟や紹介元への転院を積極的に行った。限りある病棟機能を効率的に運営し、スムーズな重症患者の受入れと治療を行い、コロナに関しても最後の砦としての役割を十分に果たすことが出来た。

本当に必要な救命救急医療への対応

近森病院は1964年6月の救急病院告示以来、半世紀以上にわたり「救急の近森」として救急患者の受け入れを行ってきた。その間、営々と医療の質を高め、2011年5月には救命救急センターに指定されており、2021年は10年目の節目を迎え5月13日に10周年記念セレモニーが開催されている。

2009年から7カ年計画で急性期の近森病院、近森リハビリテーション病院、近森オルソリハビリテーション病院の全面的な増改築工事を行い、最終的に2016年には急性期の近森病院は338床から452床に増床、総合心療センターの急性期精神科病床60床を統合し512床になった。これにより救急車の搬入件数は1.5倍となり、今まで満床でお断りせざるを得なかった紹介や救急、さらには外来からの入院患者をスムーズに受け入れている。

救急搬送される救急患者数は2020年も中四国で3番目、重篤患者数は2番目となり、生命にかかわるメジャーな傷病の入院患者数や手術件数は2016年度以降、高知県トップを続けることができた。院内誌「ひろっぴ」には2021年1月号から救急搬送件数データから始まり、2月号には循環器内科、3月号消化器内科、4月号整形外科、

5月号脳卒中センター、6月号消化器外科、7月号泌尿器科、8月号放射線科、9月号腎・透析センター、10月号形成外科、11月号心臓血管外科の診療実績（巻頭言後半に掲載）が収録され、それぞれの診療科で高知ばかりでなく中四国でも有数の診療実績を上げていることが示されている。

ソフト面でも20年以上前から先進的に地域医療連携をすすめ、2003年には高知県で初めて地域医療支援病院に承認された。2000年から心臓血管外科の開設に伴いICUなどの重症病棟を整備し、重症病棟と一般病棟とのスムーズな病棟連携もベットコントロールナースにより行なわれている。2003年には栄養サポートチームにより管理栄養士が病棟に出るようになり、2006年から全国ではじめて薬剤師、リハスタッフ、管理栄養士、臨床工学技士、MSW、歯科衛生士などの多職種による本格的な病棟常駐型チーム医療がスタートした。

病院や病棟、スタッフの機能を絞り込み連携することで医療の質を上げ、労働生産性を高め、診療機能を整備してきた。先生方はじめスタッフみんなの労働環境改善ばかりでなく、それぞれの分野ではみんなが主役であり、生き生きとやりがいをもって働いている。

専門医の充実と先進的医療の実践

2020年は才能があり意欲のある多くの先生方が集まって下さり、近森の医療の質が飛躍的に向上した年であり、2021年は先進的な医療が次々と花開き、大きなアウトカムが出た年として記念すべき年となった。なかでも麻酔科は伝統ある岡山大学麻酔科の真髄を発揮して下さり、急性期医療の根幹を担い、質・量共に近森病院の発展に大きく貢献してくれている。

2019年4月には麻酔科に森田 潔顧問のご指導のもと小坂 誠主任部長（以下、役職は2022年1月現在）が就任され、杉本 健太郎部長、野島 宏悦科長と共に、「緊急麻酔は積極的に受け入れる」を合言葉に、質の高い麻酔を実践し、外科医の信頼も極めて厚く、手術件数は毎年増加している。

2020年1月には脳神経内科の細見 直永部長が赴任され、脳卒中治療の最前線で活躍され、2021年10月にはリハビリテーション科の部長にも就任され、急性期のリハビリテーションに指導的役割を担ってくれている。2020年4月には呼吸器外科の森山重治部長が赴任され、胸腔鏡手術実績1,500例の豊かな臨床実績のもとに本格的な呼吸器外科を開設された。循環器内科では、三戸 森児部長が赴任され、不整脈に対するアブレーション治療を積極的に行い、症例を増やすとともに不整脈チームの育成に奮闘している。泌尿器科では、佐竹 宏文部長が17年振りに近森に帰って頂き、その豊富な腹腔鏡による泌尿器科手術の経験を活かし、手術症例を増やしている。腎・透析センターでは、吉村 和修部長が2年半振りに腎臓内科、人工透析内科部長として近森に帰って頂き、循環器内科医の要望を受けCHDF（持続緩徐式血液濾過透析）を本格的に稼働、さらには重症下肢虚血に対するレオカーナも導入、末梢循環改善に貢献している。総合心療センターでは、戎 正司先生が総合心療センターセンター長として27年振りに帰って来て下さった。田村 雅一先生、明神 和弘先生、宮崎 洋一先生が作り上げてくれた伝統ある総合心療センターのチーム医療をさらに発展してくれるものと期待している。

2月には整形外科の小田 和孝科長、4月には循環器内科の細田 勇人科長および菅根 裕紀先生、消化器内科の大川 良洋科長がそれぞれ国内留学を終えて帰って頂き、臨床の一線でいきいきと活躍している。9月には循環器内科の竹下昌宏科長が赴任され、心臓リハビリテーションを本格的に実践している。

多くの専門医が診療に参画して頂き、2021年には多くの先進的医療の実績が示されるようになった。

3月には経皮的左心耳閉鎖術、WATCHMAN TMを開始し、心房細動による脳卒中リスクを1回限りの手技で、生涯にわたって低減することが出来るようになった。4月にはPFO卵円孔開存閉鎖術が高知県ではじめて行われ、脳梗塞再発予防に大きな効

果を上げている。10月には僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテルによる低侵襲手術 mitral clip^oR 術が行われるようになり、大動脈弁に対する TAVI に引き続き、僧帽弁にもカテーテル治療が導入されることとなった。

重症度、医療・看護必要度の強化とその対応

近森病院は 2016 年 4 月の診療報酬改定で、急性期の基幹病院として在り続けるための重症度、医療・看護必要度が厳しくなり、7:1 の看護師を揃えれば算定出来る「ストラクチャー評価」から「アウトカム評価」に変わり、7 年計画のスタッフ増員による人件費アップと元金返済も重なり、全国で最も大きな影響を受けた病院となった。今までの発想にとらわれない自己変革を続け、経費を徹底して削減し経営危機を乗り切ることが出来た。

2020 年 4 月の診療報酬改定でも重症度、医療・看護必要度はさらに厳しくなり、重症の患者を数多く集め、早く治して、早く在宅へ帰すことが求められるようになった。そのため重症の救急、紹介の患者を今まで以上に積極的に受入れ、夜間や休日であっても手術や処置などの根本治療を迅速確実にを行い、たとえ低栄養、廃用の高齢患者であっても栄養サポートやリハビリテーションで全身状態を速やかに改善し、地域へ退院させている。

重症度、医療・看護必要度の強化で、高知県の急性期基幹病院は一斉に在院日数短縮に走り稼働率が低下したことから、救急や紹介からの新規入院患者を必死に増やしたことで、2016 年からのわずか 5 年間で 100 床以上の一般急性期病院は 16 病院から 11 病院（実質 10 病院）に減少した。診療報酬の誘導による介護療養病床 2,500 床が施設である介護医療院へ全面的に転換したこと、今回の新型コロナで入院抑制と面会出来ないことから退院も促進され、精神科や慢性期の病院の稼働率も低下したこと、さらには院長の高齢化や県外資本の M&A で病院や診療所の廃院が続発しており、高知県の地域医療は地殻変動とも言うべき大きな変化が起こっている。

この大きな変化に対応するために、組織の活性化をすすめ 2019 年 2 月からは部科長会を廃止し、診療責任者会議に組織替えを行った。先生方にも病院の運営や経営に参画していただき、その決定事項を合同運営会議で報告し、先生方はじめ全職員に病院の方向性を周知徹底することで、みんなで決めたことは確実に実行する体制を作っている。各種委員会、ワーキンググループでも委員の若返りを図り、単なる報告は最小限にし、課題解決型へ転換、アウトカムを出し近森の構造改革を推進してきた。

病院運営にかかわる大きな項目だけでも 2021 年 1 年間で 新型コロナへの対応 病院外来機能の明確化 同意書の書式統一 地域医療連携推進法人の設立 総合内科の新設と運用 2 月と 11 月の祝日を通常診療へ 病棟再編成と患者の引っ越し 救急お断り状況と改善策 DPC 実績データからみた高知県の医療情勢と今後の対応 医師の働き方改革について取り組みと改善項目、方向性 救急搬入受け入れ増加に向けて インターネット紹介予約システム導入など数多くの項目を検討し改善策を立て実践してきた。

2020 年 9 月には電子カルテシステムを全面的に更新、2021 年 4 月からは近森病院本館、北館の病棟再編成を行い、本館は超急性期・重症患者に特化し、北館はより安定した急性期病棟と地域包括ケア病棟となり、効率的な病院運営を行う体制を整えた。

近森病院 75 周年記念行事

1946 年南海大地震の 3 日後の 12 月 24 日に本館 A 棟の地に近森外科が開設され、2021 年 12 月 24 日で 75 年目になる。

75 周年記念として、75 周年のロゴを決定、壁面フラッグを病院各所に設置し、ロゴ入り封筒や名刺を製作した。Go (ゴー) to 75 (シチゴ) 周年職員川柳大会が開催され、多くの受賞作品も決定され、さらには職員延べ 1,000 名以上が参加し、色鉛筆で手塗りして仕上げられた「命を救う。命をつなぐ。」コーポレートメッセージが入った職員手作りのポスターが作られ、本館 A 棟 3 階検査室前の壁面に展示され、高知新聞

にも 12 月 24 日に全頁広告を掲載することが出来た。1992 年の新館完成記念に植樹したハナミズキの立ち枯れが目立ってきたので、時期をみて 75 周年記念植樹を行う予定である。75 周年記念として「近森病院 75 周年記念誌（近森病院 75 年の歩み、75 年目の近森会グループ）」、さらには「理事長への質問」が多くの職員から寄せられ、理事長の答えも冊子として作られる予定になっている。

12 月 24 日には新型コロナで 50 周年のような大パーティーもセレモニーも開催出来ないので、お昼には豪華な寿司弁当を全職員に食べてもらい大いに喜んで頂いた。

おわりに

時代が大きく変わり、「今までの発想にとらわれない自己変革」が求められる時代になった。医療の質を上げ、それを経営改善で支え、高知の救命救急医療の基幹病院として、高知の「地域医療を守る最後の砦」として、使命感をもってその責務を果たしていきたいと決意している。

理事会、診療責任者会議、合同運営会議はじめ各種委員会において、検討事項を真っ先に時間をかけて協議し、決定し、実践する、病院が常に変革できる体制に変わってきたことを実感している。

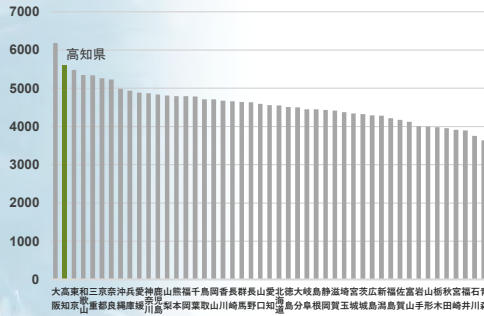
近森会グループは「小さなマネジメントを積み重ね、アウトカムを出す」ことで、常に変化し、今まで以上によりよい病院に変わり続けている。先生方はじめ、多くのスタッフの皆さん、地域のかかりつけの先生方、救急隊の皆さん、多くの企業の皆さん、そしてなによりも高知の県民、市民の皆さんとともに、これからも元気に歩んでいきますので、どうかよろしく願いいたします。

2022 年 1 月

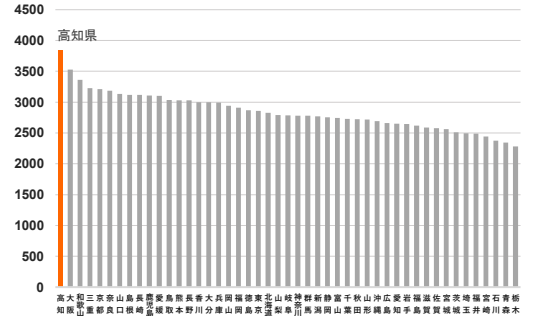
救急搬送件数データ

全国における高知県の現況 (2018年)

救急搬送件数(人口10万人あたり)
5,608 高知県 全国**2**位



救急搬送のうちの高齢者数(人口10万人あたり)
3,843 高知県 全国**1**位

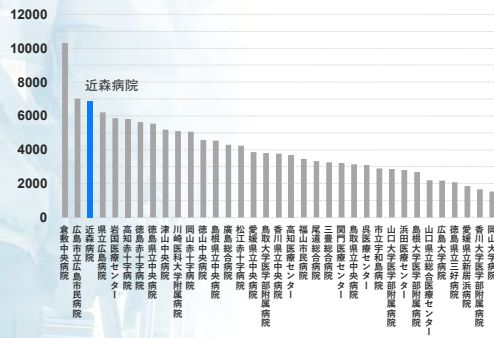


出典：総務省消防庁 救急救助の現況

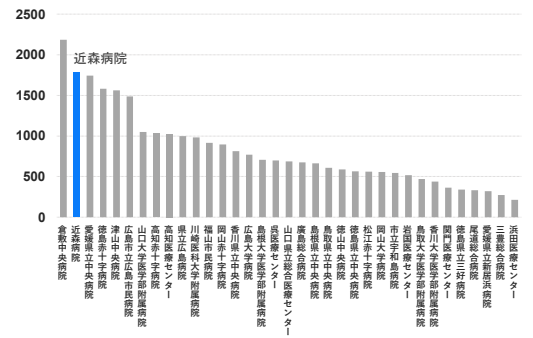
中国・四国における近森病院の現況 (2019年)

中国・四国地方の救命救急センター 35施設集計

救急搬送件数
6,867件/年 近森病院 中国・四国地方**3**位



重篤患者受入件数
1,785件/年 近森病院 中国・四国地方**2**位

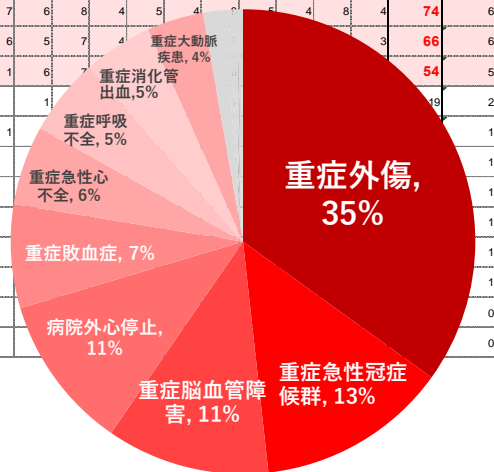


出典：厚生労働省 救命救急センターの評価結果(実績)

近森病院 年間重篤患者受入件数【救急車およびドクターヘリ】

疾病名	基準	2019年												総計	月平均
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
重症外傷	Max AISが3以上又は緊急手術が行われた患者 四肢もしくは指趾の切断ないし不全切断と診断され、再接合術が実施された患者	37	32	45	40	36	41	43	46	38	42	47	33	480	40
重症急性冠症候群	切迫心筋梗塞又は急性心筋梗塞と診断された患者若しくは緊急冠動脈カテーテルによる検査又は治療を行った患者	13	12	14	15	15	9	19	12	19	19	12	24	183	15
重症脳血管障害	来院時JCS100以上であった患者、開頭術、血管内手術を施行された患者又はtPA療法を施行された患者	17	12	12	11	15	7	16	13	13	11	14	15	156	13
病院外心停止	病院への搬送中に自己心拍が再開した患者及び外来で死亡を確認した患者を含む	18	12	12	11	20	11	8	13	7	7	10	19	148	12
重症敗血症	感染症によって重症な臓器障害が引き起こされた患者	6	8	8	3	7	4	12	8	14	14	11	4	99	8
重症急性心不全	急性心不全により、人工呼吸器を使用した患者又はSwan-Ganzカテーテル、POPS若しくはIABPを使用した患者(1から11までを除く)	6	8	8	8	8	8	4	6	3	4	4	9	76	6
重症呼吸不全	呼吸不全により、人工呼吸器を使用した患者(1から11までを除く)	11	7	6	8	4	5	4	7	4	4	8	4	74	6
重症消化管出血	緊急内視鏡による止血を行った患者	10	6	5	7	4	4	4	4	4	4	4	3	66	6
重症大動脈疾患	急性大動脈解離又は大動脈瘤破裂と診断された患者	6	1	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	54	5
重症急性腎不全	急性腎不全により、血液浄化療法を施行された患者(1から11までを除く)	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	19	2
重症意識障害	JCS100以上の状態が24時間以上持続した患者(1から11までを除く)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
重症体温異常	熱中症又は偶発性低体温症で臓器不全を呈した患者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特殊感染症	ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風等と診断された患者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他の重症病態	重症肺炎、内分泌クリーゼ、溶血性尿毒症症候群等に対して持続動注療法、血漿交換又は手術療法を施行された患者(1から17までを除く)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
重症熱傷	Artsの基準により重症とされた患者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
重症急性中毒	来院時JCS100以上であった患者又は血液浄化療法を施行された患者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
重症出血性ショック	24時間以内に10単位以上の輸血が必要であった患者(1から11までを除く)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
重症な肝不全	肝不全により、血漿交換又は血液浄化療法を施行された患者(1から11までを除く)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

出典：近森病院データ



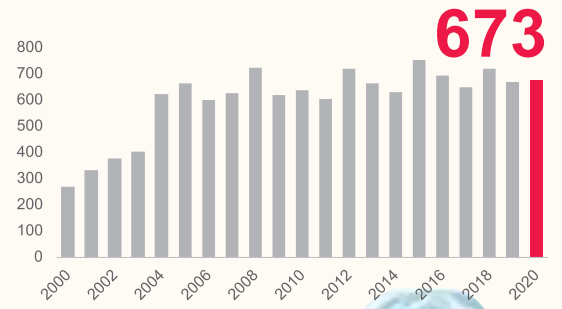
本資料は、中央省庁の公表するデータをまとめています。
 高知県は人口あたりの救急搬送件数が全国二位、そのうち
 高齢者数では全国トップの搬送実績であり救急医療現場の
 多忙な状況がうかがえます。

循環器内科の診療実績

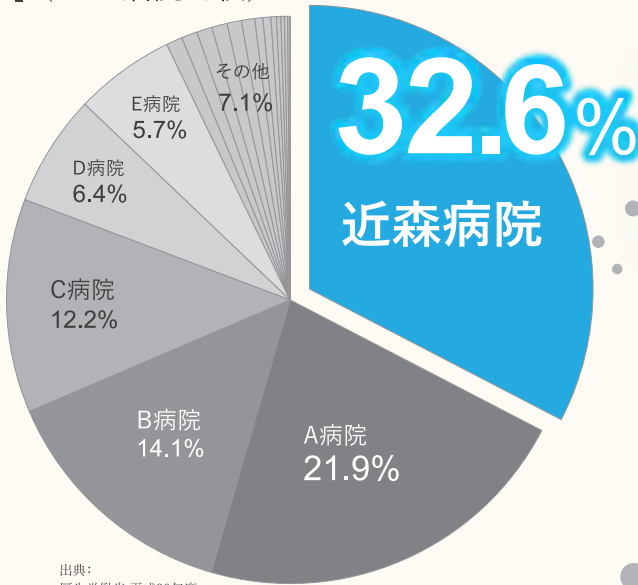
血管内治療 (EVT)



冠動脈カテーテル治療 (PCI)



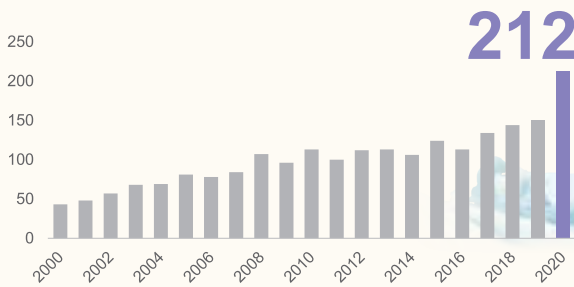
高知県 循環器疾患占有率 (DPC病院比較)



出典：
厚生労働省 平成30年度
DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告 資料

疾患	症例数	疾患	症例数
①狭心症、慢性虚血性心疾患	1,089	⑩心内膜炎	7
②心不全	548	⑪心筋症	6
③閉塞性動脈疾患	260	⑫破裂性大動脈瘤	5
④頻脈性不整脈	252	⑬静脈・リンパ管疾患	5
⑤急性心筋梗塞	210	⑭腎血管性高血圧症	3
⑥徐脈性不整脈	153	⑮心筋炎	2
⑦弁膜症	80	⑯急性心膜炎	2
⑧たこつぼ型心筋障害	30	⑰高血圧性疾患	2
⑨肺塞栓症	12	⑱非ホジキンリンパ腫	2
⑩非破裂性大動脈瘤	11	⑳肺高血圧性疾患	2
⑪その他の動脈疾患	11	㉑手術・処置等の合併症	1

デバイス治療(ペースメーカー等)

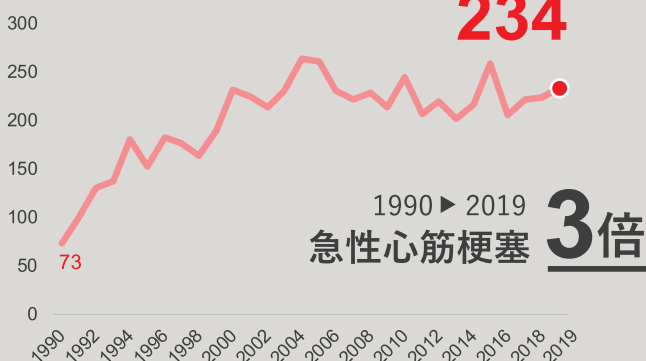


アブレーション治療



急性心筋梗塞の現況

・近森病院の症例推移

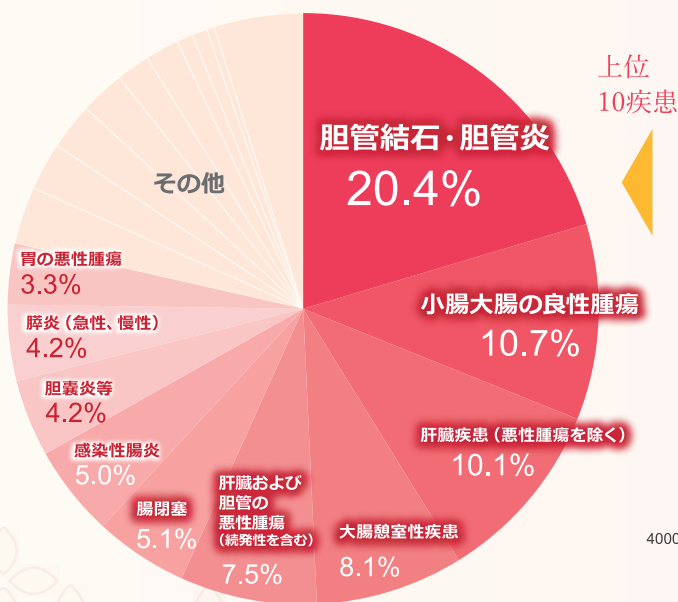


・高知県急性心筋梗塞治療センターの治療成績 (2012~2018実績)

	近森病院	A病院	B病院	C病院	D病院	E病院
急性心筋梗塞	1,554	580	187	600	374	45
ST 上昇型心筋梗塞	1,044	455	119	466	264	29
冠動脈カテーテル治療	4,156	2,711	1,369	1,741	1,111	237
冠動脈バイパス手術	596	271	201	129	0	0
カテーテル治療専門医	4人	1人		1人		

消化器内科の診療実績

消化器系疾患の症例数と割合

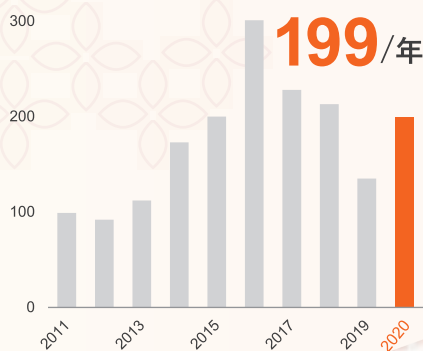


近森病院 消化器内科 疾患別症例数(2020年)		1,683	
胆管結石、胆管炎	343	胃十二指腸潰瘍	53
小腸大腸の良性腫瘍	180	虚血性腸炎	44
肝臓疾患(悪性腫瘍除く)	170	結腸・直腸の悪性腫瘍(盲腸含む)	43
大腸憩室性疾患	136	食道、胃、十二指腸、小腸の炎症(その他良性)	41
肝臓および胆管の悪性腫瘍(続発性含む)	126	膵臓の悪性腫瘍	31
腸閉塞	86	炎症性腸疾患	31
感染性腸炎	84	食道の悪性腫瘍(頸部含む)	15
胆嚢炎等	71	胃の良性腫瘍	14
膵炎(急性・慢性)	70	胆嚢の悪性腫瘍	7
胃の悪性腫瘍	56	その他	82

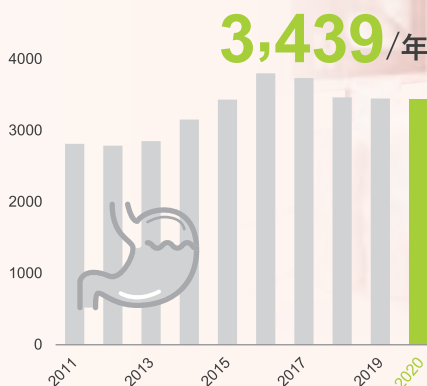
出典：近森病院 消化器内科 診療実績データ

主な検査項目と実施件数

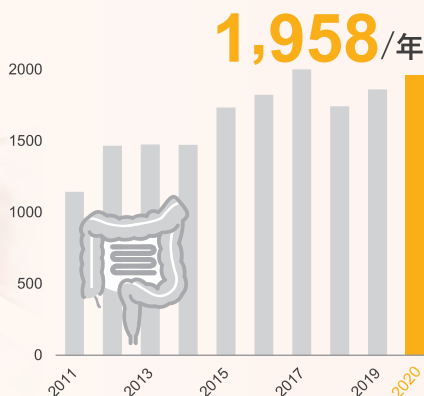
超音波内視鏡件数(EUS)



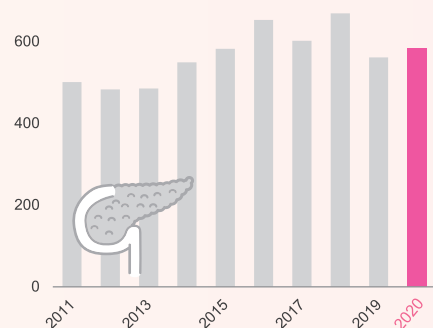
上部内視鏡件数(EGD)



下部内視鏡件数(CS)



逆行性膵管胆管造影件数(ERCP)



『胆管結石・胆管炎』に関する内視鏡的手術件数(ERCP)

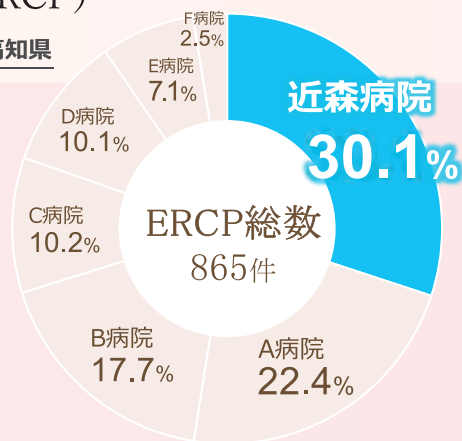
中国・四国内におけるDPCデータ比較(2018年度)



近森病院実績(2018年度)

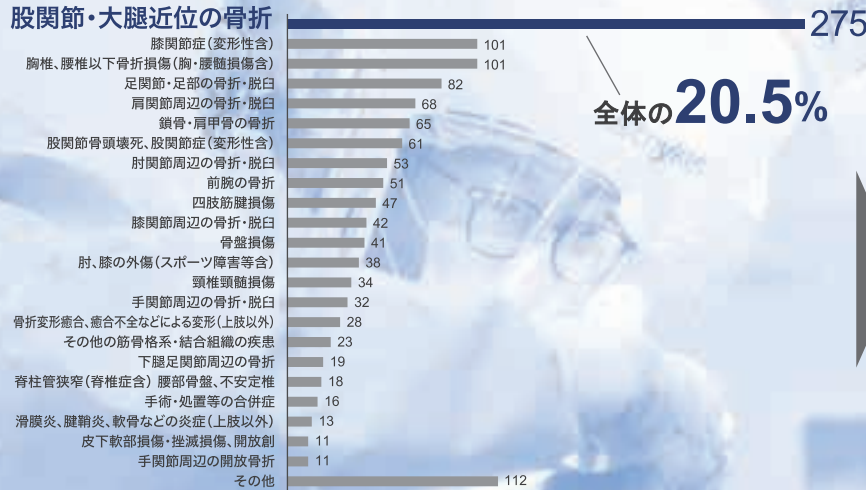
高知県内/21病院 **1位**
 四国内/79病院 **2位**
 中国・四国内/211病院 **5位**

高知県



ERCP総数
865件

整形外科 疾患別症例数 (2020年)



出典：近森病院整形外科 診療実績データ

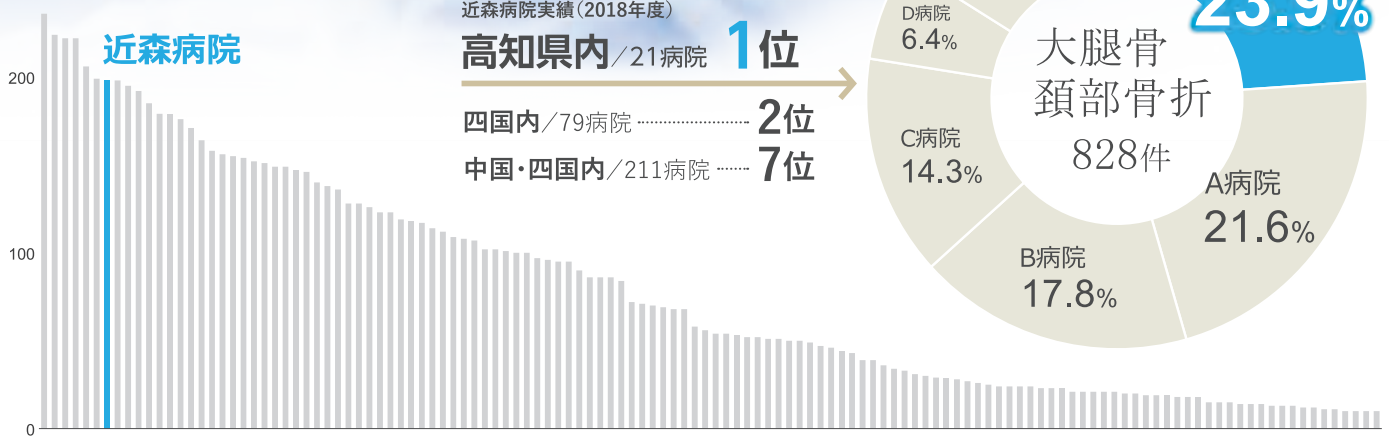
年間の手術件数



整形外科の診療実績

大腿骨頸部骨折の手術件数

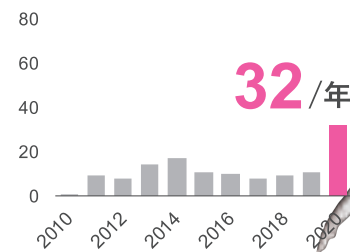
中国・四国内でのDPCデータ比較(2018年度)



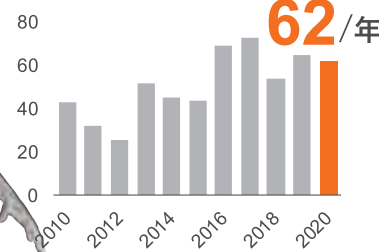
出典：DPCデータ「股関節・大腿近位の骨折」160800xx01xxxx

関節手術の実施件数

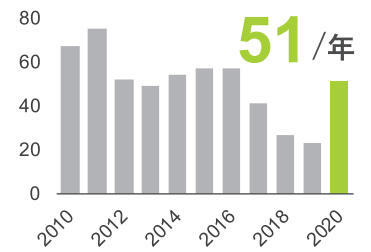
鏡視下手術(肩)



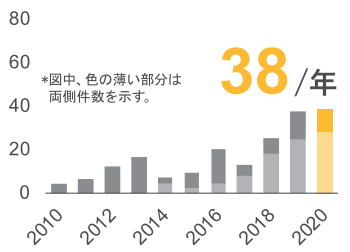
全人工股関節置換術(THA)



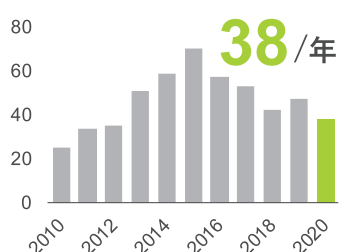
鏡視下手術(膝)



脛骨顆外反骨切り術(TCVO)



人工膝関節全置換術(TKA)



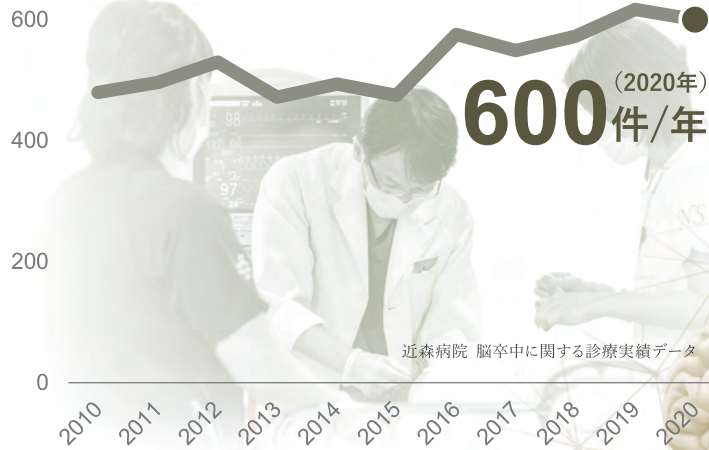
単型人工膝関節置換術(UKA)



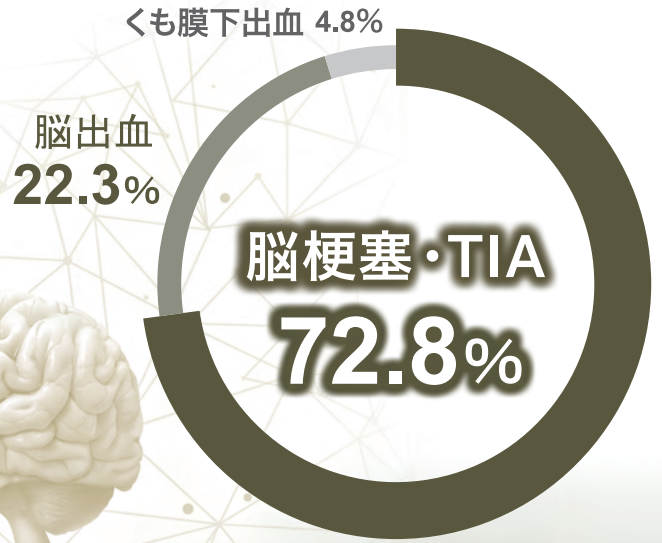
脳卒中センターの診療実績

脳神経内科
脳神経外科

近森病院 脳卒中患者数の推移



近森病院 脳卒中の疾患割合



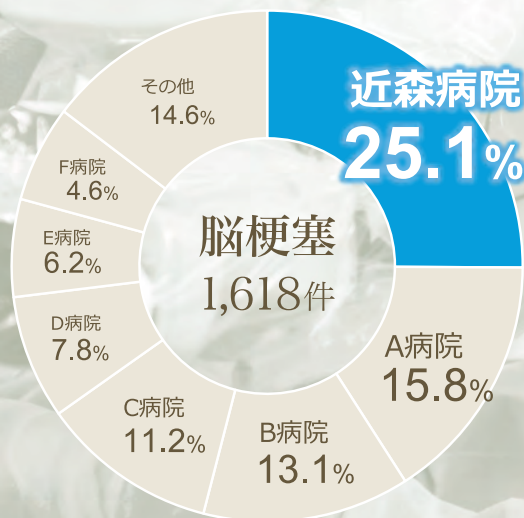
中国・四国における脳卒中患者数

DPCデータ比較(2018年度)



高知県における脳梗塞患者数

DPCデータ比較(2018年度)



近森病院 医師数

脳神経内科	5名	脳卒中専門医	7名
脳神経外科	5名	血管内治療専門医	2名

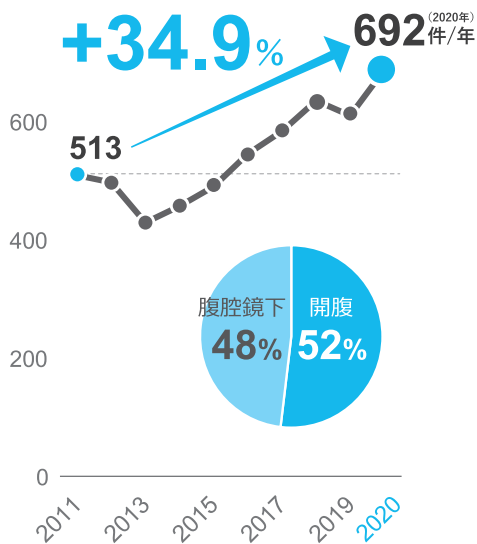
2021年4月1日時点

近森病院は、一般社団法人日本脳卒中学会認定の「一次脳卒中センター」(PSC:Primary Stroke Center)です。

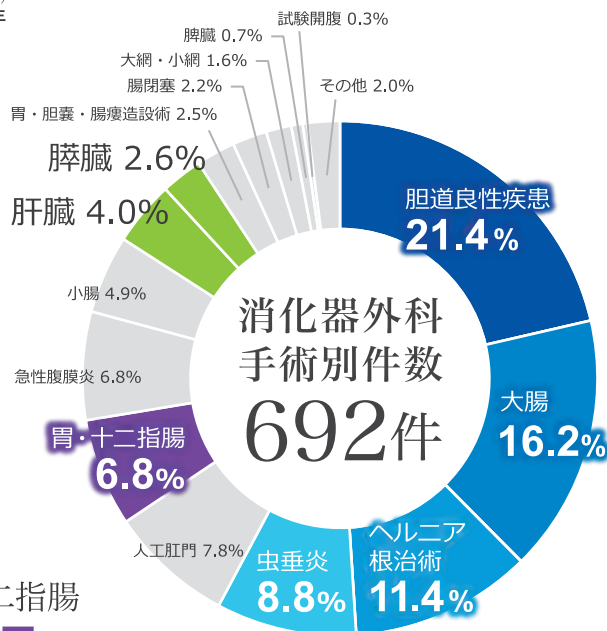
一次脳卒中センターとは、2016年に日本脳卒中学会と日本循環器学会が共同で作成した「脳卒中と循環器病克服5か年計画」において、充実した医療体制の構築を目的に一定の施設要件を満たした医療機関を認定するものです。

消化器外科の診療実績

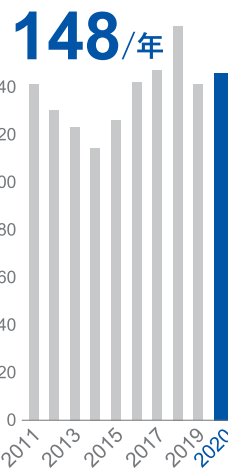
総手術件数の推移



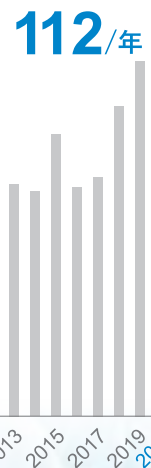
手術内容とその割合



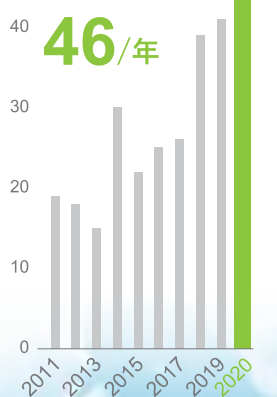
胆道良性疾患



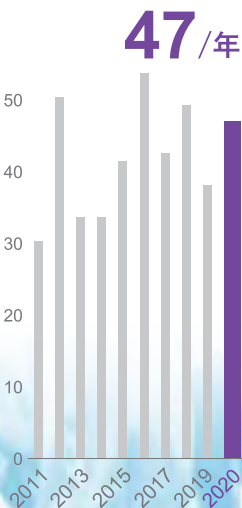
大腸



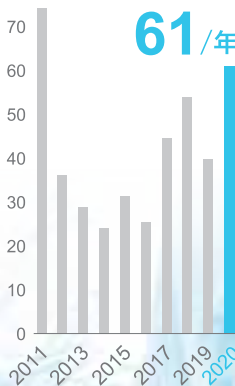
肝臓・胆道・膵臓の悪性腫瘍



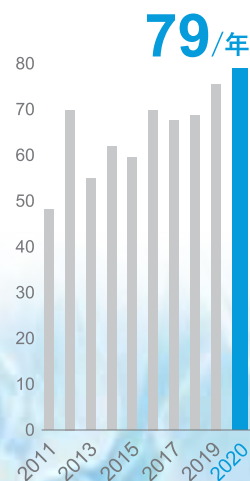
胃・十二指腸



虫垂炎



ヘルニア根治術



出典：近森病院消化器外科診療実績データ

『胆嚢』に関する手術件数

中国・四国内におけるDPCデータ比較(2018年度)



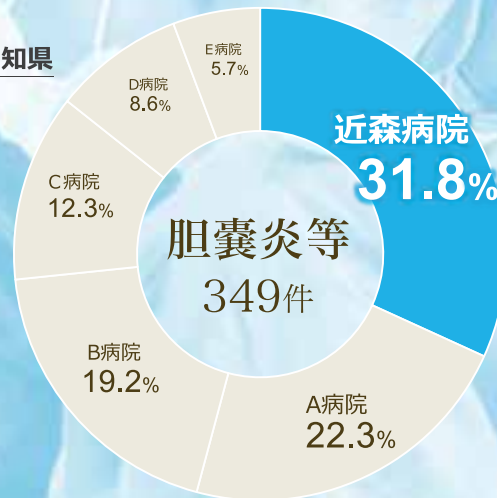
近森病院実績(2018年度)

高知県内/21病院 **1位**

四国内/79病院 **5位**

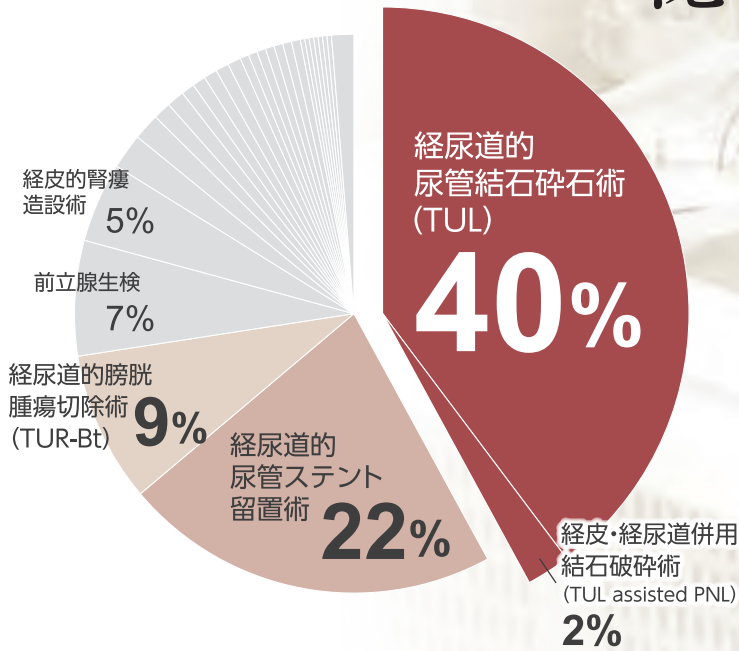
中国・四国内/211病院 **7位**

高知県

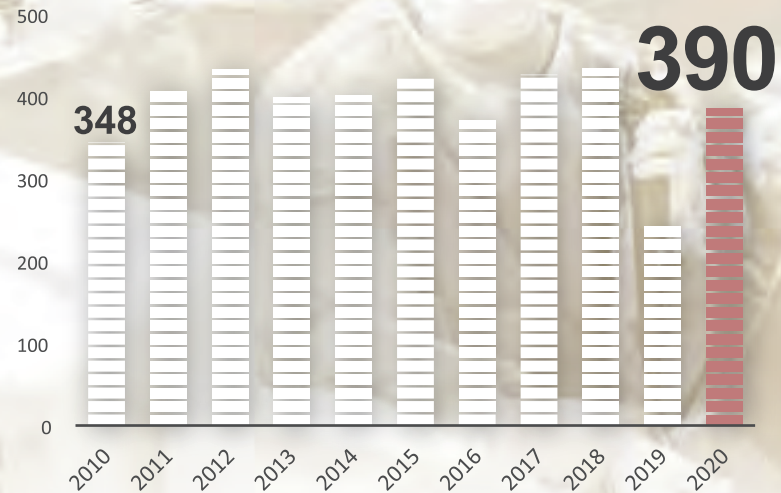


泌尿器科の診療実績

手術割合(TOP5)



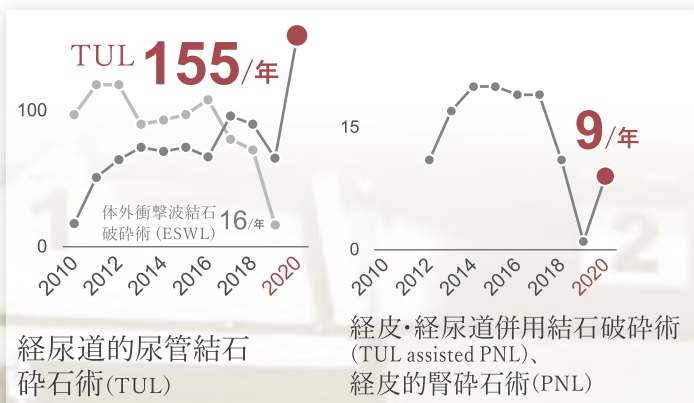
総手術件数の推移



手術件数の内訳(2020年実績)

出典:近森病院 泌尿器科 診療実績データ

泌尿器科 手術別件数(2020年)									
経尿道的尿管結石碎石術(TUL)	155	膀胱碎石術	8	膀胱生検	3	膀胱部分切除術	2	後腹膜腫瘍摘出術	1
経尿道的尿管ステント留置術	85	陰嚢水腫根治術	6	内尿道切開術	3	膀胱水圧拡張術	2	後腹膜鏡下リンパ節生検	1
経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt)	34	膀胱凝固止血術	4	経尿道的前立腺切除術(TUR-P)	3	腹腔鏡下尿管摘除術+臍形成術	2	尿管鏡	1
前立腺生検	26	環状切開術	4	回腸導管造設術	2	高位精巣摘除術	2	精索捻転解除術	1
経皮的腎瘻造設術	18	腹腔鏡下腎摘除術	3	膀胱瘻造設術	2	腹腔鏡下腎部分切除術	1	精巣摘除術	1
経皮・経尿道併用結石破碎術(TUL assisted PNL)	9	腹腔鏡下尿管全摘術	3	腹腔鏡下膀胱全摘除術	2	腹腔鏡下腎盂形成術	1	その他の手術	5



『経尿道的尿管結石碎石術(TUL)』に関する手術件数

中国・四国内におけるDPCデータ比較(2019年度)

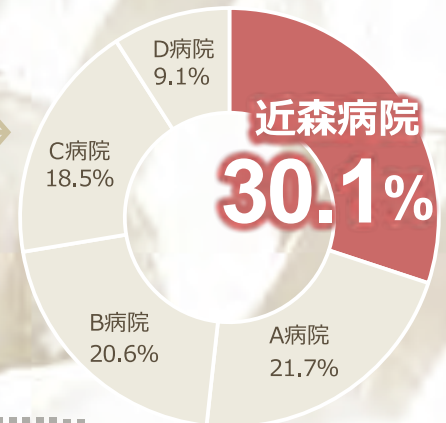


近森病院実績(2019年度)

高知県内/21病院 **1位**

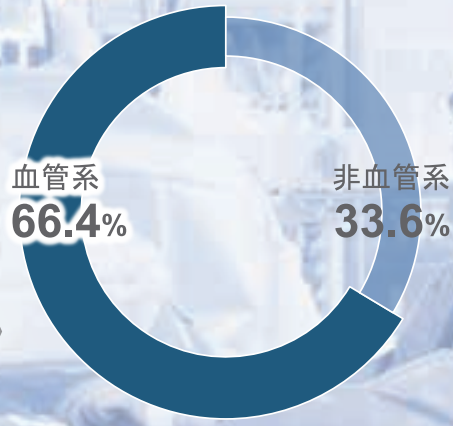
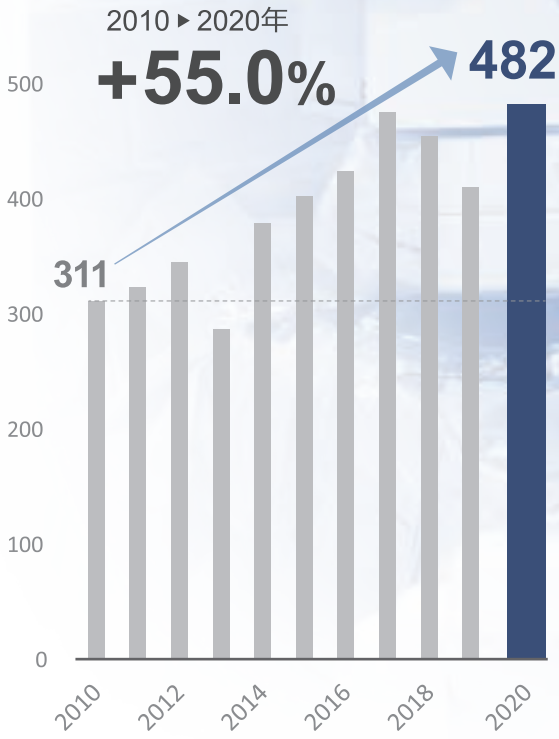
四国内/79病院 **5位**

中国・四国内/211病院 **10位**



放射線科の診療実績

総手術件数の推移



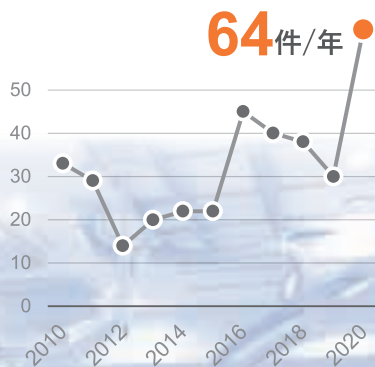
手術件数の内訳 (2020年実績)

血管系 (320件)		非血管系 (162件)	
透析シャントIVR	112	PTGBD	50
CVポート	64	膿瘍ドレナージ(US下)	34
TACE(HCC)	47	膿瘍ドレナージ(CT下)	20
外傷・止血TAE	30	PTCD	18
大動脈ステントグラフト	14	CT下生検	12
その他TAE(術前など)	11	胆管ステント	9
パパペリン動注療法(NOMI)	8	US下生検	6
膝炎動注療法	7	胆道その他	2
B-RTO	5	その他	11
末梢血管系IVR	2		
PSE	1		
その他	19		

経皮的シャント拡張術・ 血栓除去術(透析シャントIVR)



中心静脈注射用植込型 カテーテル設置(CVポート)

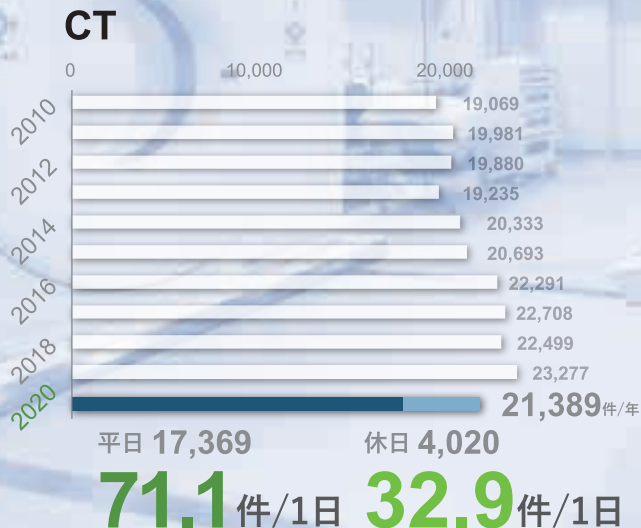


経皮経肝胆嚢ドレナージ術 (PTGBD)



検査件数の推移

出典:近森病院放射線科 診療実績データ

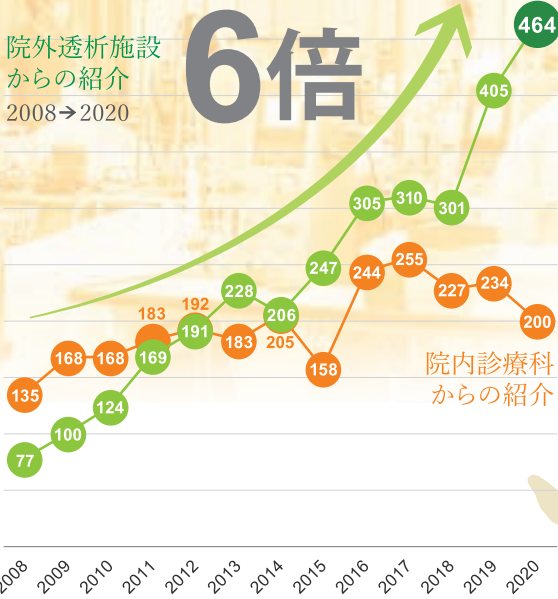


出典:日本IVR学会症例報告数

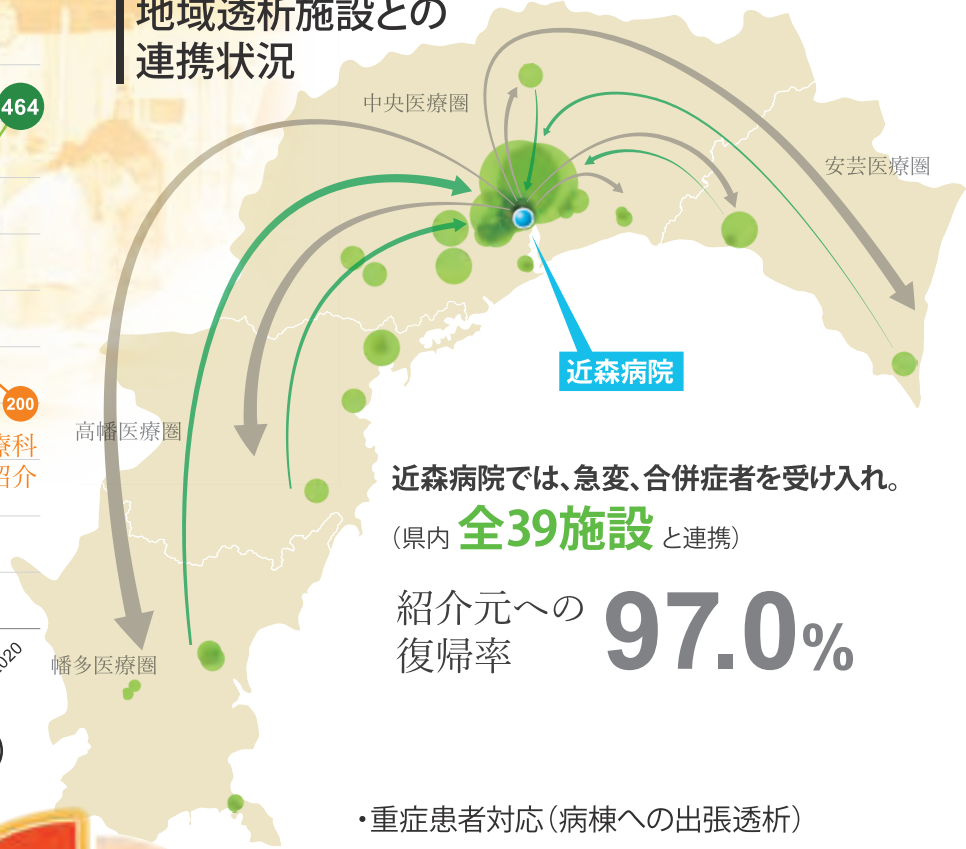
腎・透析センターの 診療実績

出典:近森病院 腎・透析センター 診療実績データ

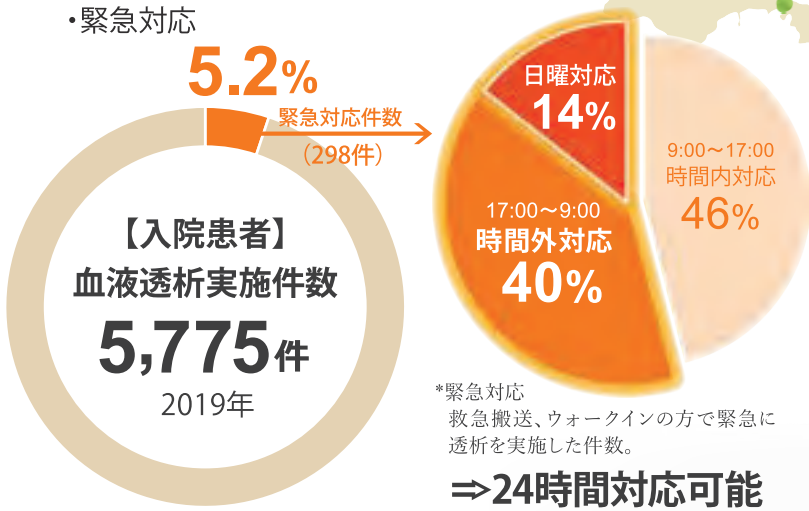
透析患者 紹介受入件数の推移 (2008~2020年)



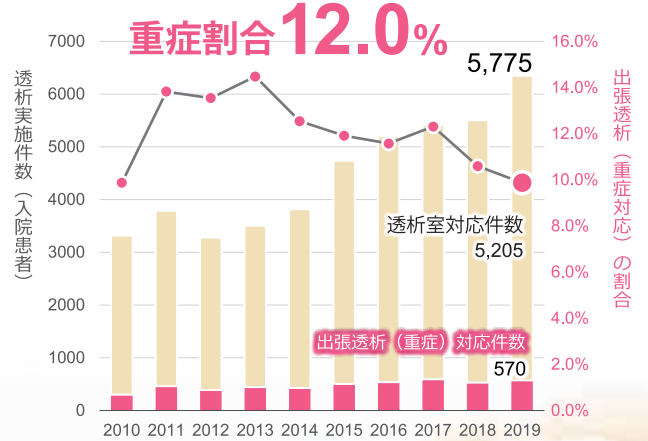
地域透析施設との 連携状況



血液透析実施件数(入院患者)

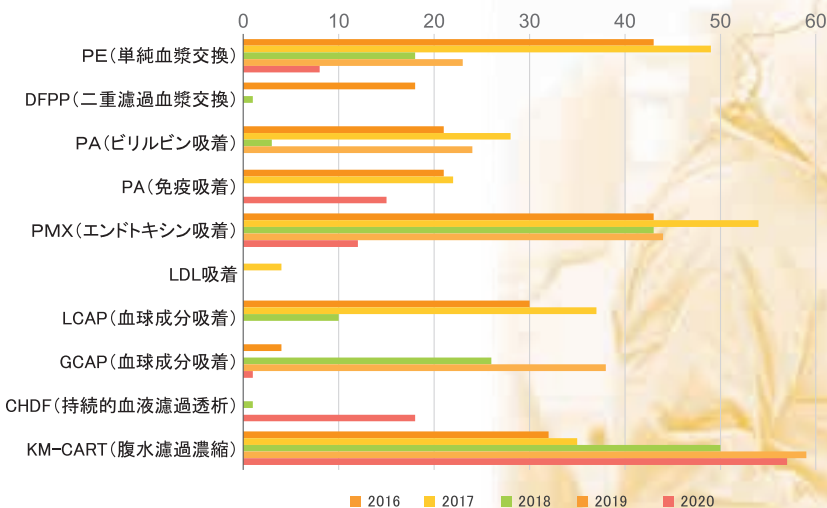


・重症患者対応(病棟への出張透析)

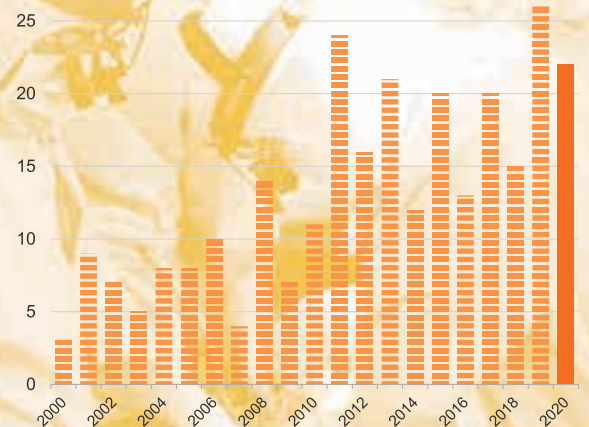


出張透析は、人工呼吸器装着の方や、手術後の方が対象であり、
ここでは重症患者と定義した。

透析以外の血液浄化件数

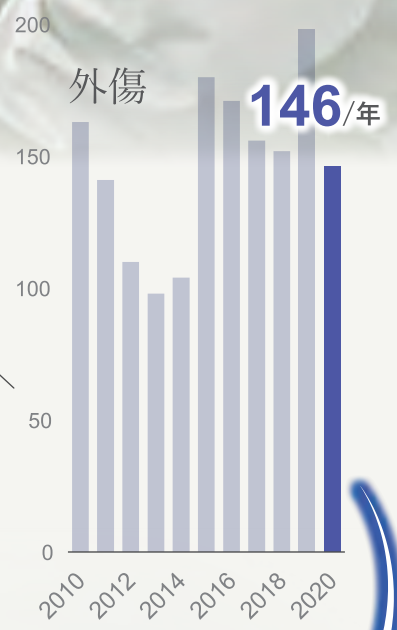
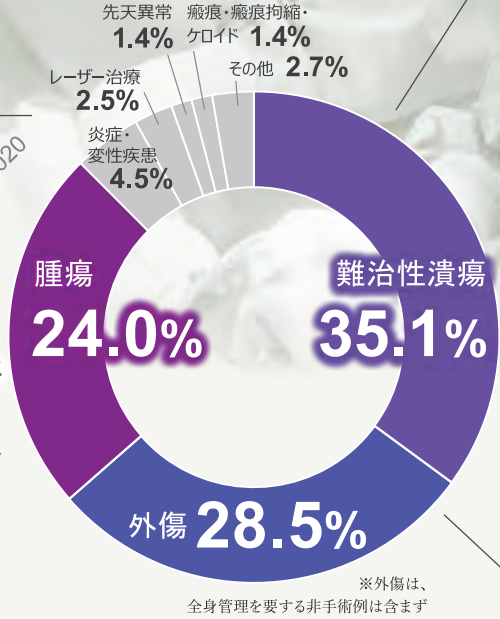
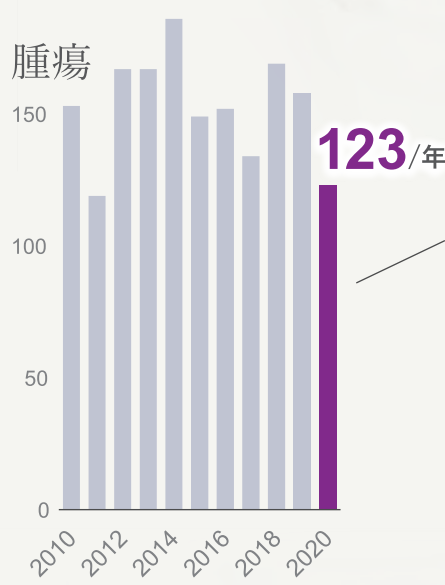
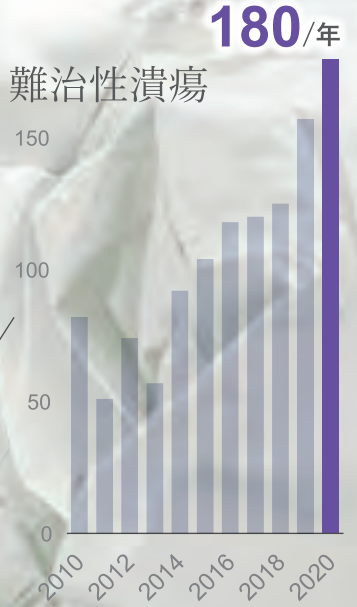
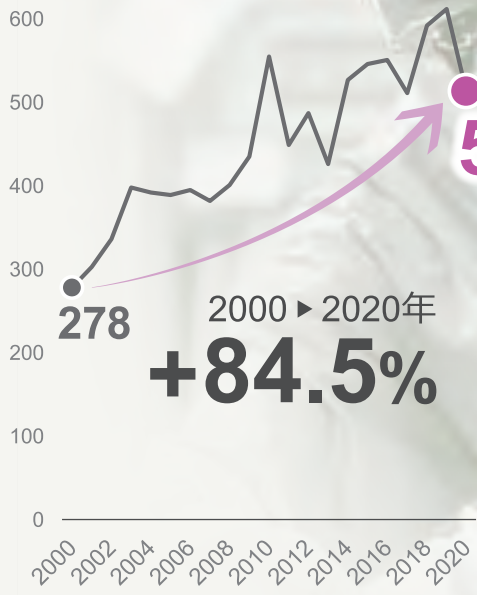


維持透析患者の心臓手術件数



形成外科の診療実績

手術件数の推移



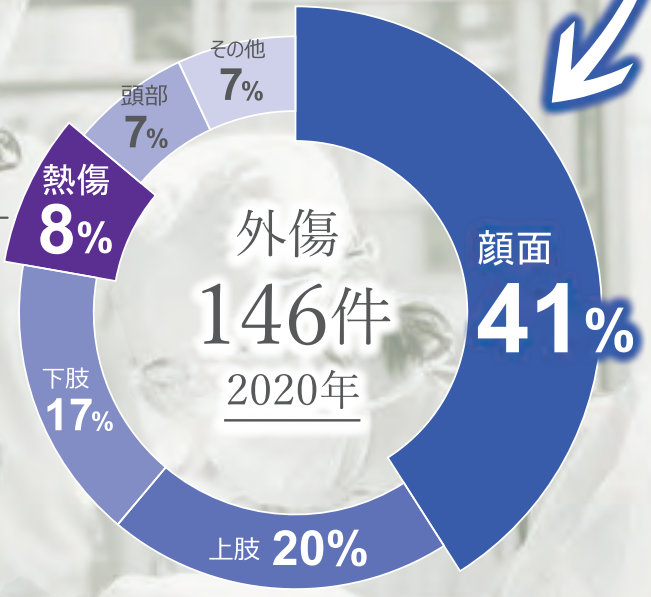
手術件数の内訳(2020年実績)
出典: 近森病院形成外科 診療実績データ

『顔面骨骨折』に関する手術件数

中国・四国内におけるDPCデータ比較 (2019年度)

近森病院

近森病院
中国・四国内
1位
病院数211



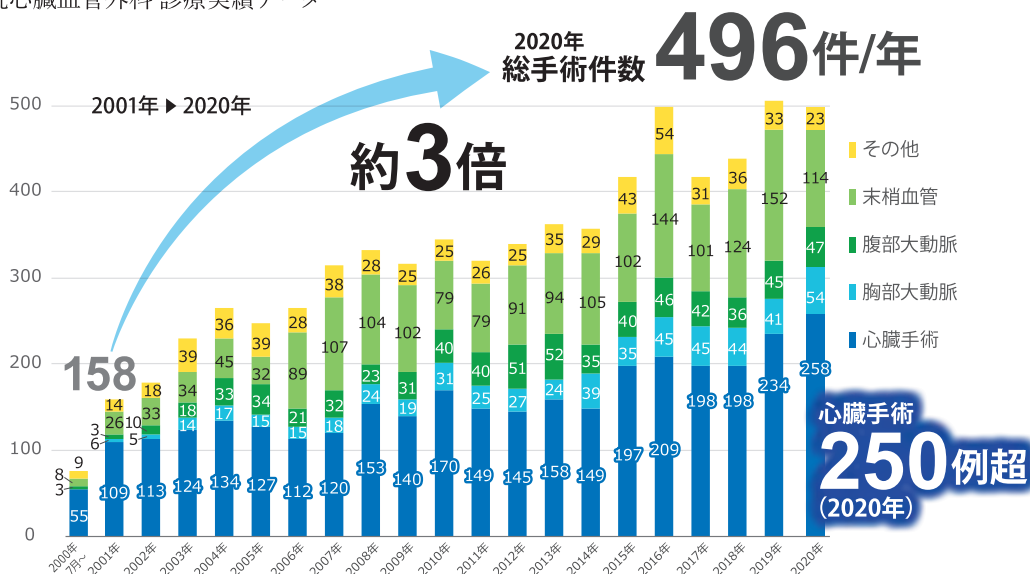
広範囲の熱傷にも対応

当院は、特定集中治療室管理料2の施設基準を満たしています。
(2021年8月1日時点で、県内では当院を含め2病院が該当)

出典: DPCデータ 鼻骨骨折整復固定術、頬骨骨折観血的整復術、
眼窩骨折観血的手術等を集計

手術件数の推移

出典:近森病院心臓血管外科 診療実績データ



心臓血管外科の診療実績

充実したスタッフ



経皮的動脈弁植え込み術専門施設

TAVI 2019年 4月
四国初の専門施設(全国20番目)

2020年10月
TAV in SAV実施施設

2021年 2月
四国初の慢性透析患者さんへの
TAVI実施施設認定(全国28施設)

TAVI総件数
419件
(2014年12月～2021年9月30日実績)

ハートチーム
心臓血管外科、循環器内科、
放射線科、麻酔科

高難度手術後でもすぐにリハビリ開始

▼ 心臓手術の翌日に歩行 (2000年～)



▼ 心臓手術の当日に立位 (2011年～)

